

北海道原水協ニュース

原水爆禁止北海道協議会 Eメール hokkaidogensuikyo@pearl.ocn.ne.jp
電話011 (747) 7557 fax011 (747) 7537 発行/2019年 8月16日

さあ変えよう、私たちの声と行動で

「皆さん、本気の署名、やりましょう!!」

8月7日世界大会北海道代表団の結団式・・・

長崎の被爆者大塚一敏さんは、「被爆者と市民の共同で政治を動かす時代が来た」と語り、「白血球減少症、心臓発作、肺閉塞、歩行困難の私は命のかぎり訴えます。私の生きる希望です。核保有国の核脅威を打ち破るために、本気で、本気でヒバクシャ署名を」と静かに、力強く訴えました。小学生5人、中学生2人、高校生15人を含む北海道代表団（団長・山本隆幸道東勤医労委員長）135人はしっかり受け止めました。

日本が戦争しなければ、原爆はなかった



写真上

・大塚一敏さん

写真左・署名数

掲げる山本

団長(開会総会)

写真右・登壇

発言する高

校生

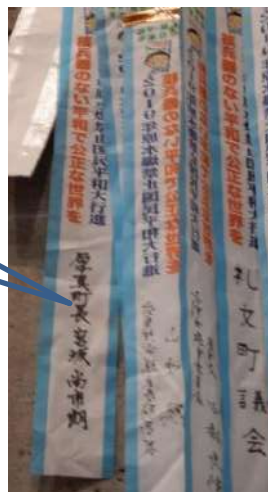
写真下・核兵器

廃絶の決意

(閉会総会)



国民平和大行進の時に自治体等に記名いただいたペナントが、会場の周りに掲示されていました。厚真町長が記名したペナント。



【日本原水協から秋の行動のよびかけ】

「国際会議宣言」を力に

- 1) 10月の国連総会へ「ヒバクシャ国際署名」の提出めざし、9月の6・9行動、核兵器廃絶国際デーを全国行動日として署名&宣伝行動を。被爆者を先頭に、首長や議員とも共同して、署名運動を自治体ぐるみ、地域ぐるみで発展させよう。
- 2) すべての地域・自治体で「原爆展」「原爆の絵展」や被爆体験を語る集いにとりくもう。
- 3) 9月議会に向けた日本政府へ核兵器禁止条約への調印・批准を求める自治体意見書の取り組み大きく広げ、過半数を超えよう。

■被爆者援護連帯募金

被爆者の体験を伝え、核兵器禁止・廃絶を訴える広島・長崎の被爆者の運動と生活を支えるために、すべての都道府県で草の根の運動として取り組む。

世界大会報告会、署名&宣伝行動など、どうぞ積極的に取り組んで下さい。



■世界大会一長崎・閉会総会【ナガサキデー集会】 8月9日(金)
*核兵器のない世界をめざす被爆国の決意～長崎から 2020 年 NY へ

- ・北海道代表団の高校生と一緒に登壇して、発言・
市川千紗都 北海道・伊達高校 3 年

みなさんこんにちは。私は北海道伊達高等学校 3 年生の市川千紗都です。

私がこの大会に参加したのは、被爆者の生の声を聞くことができ、同世代や異世代と意見の交流をすることができるので、自分の見聞を広げることができると思ったからです。

北海道伊達市で生まれ育った私は、高校に入学してから、放送の部活動で初めて戦争の残酷さ、悲惨さだけでなく、いまの平和を大切にすることや、平和をつなぐためには、相手の立場になって考え、人を思いやる想像力の大切さを学びました。

私はいま、この長崎の地で、改めて被爆された方々の想いを感じることができました。戦争で無情にも失われた尊い人々の気持ちになって考え、その悲しみ、苦しみ、そして平和への願いを強く感じました。

戦後 74 年を迎えたいまでも、被爆者の、戦争体験者の心は癒えません。

平和のために、核兵器を廃絶させるために、一人では全く無力にさえ感じる弱い私に何ができるかの考えると、まるで、目の前にとっても重くて開きそうにない扉があるような気持ちになります。扉の向こうには、平和の声がかすかに聞こえているけれど、どんなに叩いても何も変化がなく、扉を叩くことを諦めてしまいそうにもなります。でも、私とみなさんには声という武器があります。その声が扉を開く鍵になるのだと思います。

最後に、この地で感じたことを 2 つ言います。

1 つ目は、これからもみなさんと一緒に目の前の平和への扉を叩き続けていこうということ。そして 2 つ目、平和への扉は必ず開かれるということです。

ご清聴ありがとうございました。

